

科目名	科目担当代表教員	ページ数
キャリアデザインを学ぶⅡ	西川 祥一	4
言葉と理解Ⅰ	黄 美花	7
健康と心理を学ぶ	前田 潤	10
食と健康を学ぶ	樋口 葵	13
ITソリューションについて学ぶ	末富 弘	16
文学について学ぶ	星野 芳輝	19
国際関係と経済を学ぶ	麻生川 静男	22
経済の知識を学ぶ	中田 和則	26
政治の知識を学ぶ	西川 祥一	30
日本国憲法を学ぶ	永田 均	33
歴史学を学ぶ	種石 悠	36
異文化コミュニケーションを学ぶ	杉山 維彦	39
多文化共生を学ぶ	末富 弘	42
スポーツとキャリアを学ぶ	山中 慎	45
自然科学を学ぶ	山中 慎	48
ジェンダーを学ぶ	尾野 裕子	51
哲学を学ぶ	宮崎 勝正	54
博物館論(展示)	種石 悠	57
博物館論(資料)	種石 悠	60
伝統文化D(アイヌ伝承技芸)	長谷 仁美	63
伝統文化A(茶道)	富田 聡子	66
基礎ロシア語	福本 達也	70
基礎韓国語	金 昌男	73
基礎中国語	田 桃雨	77
Academic WritingⅡ	瀬名波 栄潤	80
Academic ReadingⅡ	瀬名波 栄潤	84
対人コミュニケーションⅡ	黄 美花	87
対人コミュニケーションⅠ	黄 美花	90
プレゼンテーション・スキルⅡ	星野 芳輝	93
プレゼンテーション・スキルⅠ	田 桃雨	96
言葉と表現Ⅱ	星野 芳輝	99
言葉と表現Ⅰ	田 桃雨	102
言葉と理解Ⅱ	黄 美花	105
倫理学	前田 潤	108
情報セキュリティ	上原 貴史	111
職業能力とキャリア	西川 祥一	114
協働と対人関係	瀬名波 栄潤	117
マネジメント論	中田 和則	120
地域産業論	末富 弘	124
地方自治論	杉山 維彦	127
統計の基礎	中田 和則	130

データサイエンス	末富 弘		134
情報システム	上原 貴史		137
情報の収集と発信	西川 祥一		140
先住民学	種石 悠		143
持続可能社会論	末富 弘		146
日本歴史文化論	山中 慎		149
英語で学ぶ日本	瀬名波 栄潤		152
イギリス歴史文化論	瀬名波 栄潤		155
オセアニア歴史文化論	種石 悠		159
Advanced Reading I	高橋 あすか		162
Advanced Writing	高橋 あすか		165
Business English II	杉山 維彦		168
English Phonology	高橋 あすか		171
English for Tourism	杉山 維彦		174
Extensive Reading II	福本 達也		177
Extensive Reading IV	黄 美花		180
Extensive Reading IV	杉山 維彦		183
Intensive Reading IV	星野 芳輝		186
Public Speaking	高橋 あすか		189
インテンシブ中国語Ⅲ	田 桃雨		192
ビジネス日本語Ⅱ	中田 和則		195
中国語コミュニケーションⅡ	田 桃雨		199
中日翻訳Ⅱ	田 桃雨		202
日本語コミュニケーションⅣ	福本 達也		205
日本文学B	星野 芳輝		208
基礎ゼミナールⅡ	福本 達也		211
基礎ゼミナールⅡ	福本 達也		214
基礎ゼミナールⅡ	福本 達也		217
専門ゼミナールⅡ	種石 悠		220
専門ゼミナールⅣ	高橋 あすか		223
専門ゼミナールⅣ	福本 達也		226
専門ゼミナールⅣ	田 桃雨		229
専門ゼミナールⅣ	中田 和則		232
専門ゼミナールⅣ	西川 祥一		236
専門ゼミナールⅣ	星野 芳輝		239
専門ゼミナールⅣ	瀬名波 栄潤		242
専門ゼミナールⅣ	杉山 維彦		245
専門ゼミナールⅣ	種石 悠		248
専門ゼミナールⅣ	山中 慎		251
専門ゼミナールⅣ	末富 弘		254
専門ゼミナールⅣ	黄 美花		257
卒業研究	黄 美花		260

卒業研究	種石 悠		264
卒業研究	山中 慎		268
卒業研究	高橋 あすか		272
卒業研究	末富 弘		276
卒業研究	福本 達也		280
卒業研究	田 桃雨		284
卒業研究	中田 和則		288
卒業研究	西川 祥一		293
卒業研究	星野 芳輝		297
卒業研究	瀬名波 栄潤		301
卒業研究	杉山 維彦		305
地域創生B	星野 芳輝		309
日本語学	福本 達也		312
日本語教授法Ⅱ	奥村 訓代		315

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		一般教育科目 入門					
科目名		キャリアデザインを学ぶⅡ					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	西川 祥一		
到達目標							
・「なぜ北洋大学に入学したのか」「大学で何を学ぶべきか」を考え、「自己理解」を深めることができる。 ・自分はどんな人間で、得意、不得意は何か。自分を知ることで、学ばなければならない学問を見つけることができる。							
成績評価の方法							
・毎回の授業で記入するコメントペーパーなどによる授業の積極的な参加(50%)、期末レポート(50%)							
テキスト							
独自の資料を毎回、用意します。							
その他							
講義内容							
・大学での学びと将来のキャリアについて考えるために、まず「なぜ自分は北洋大学に入学したのか」「大学で何を学びたいのか」を振り返る。さらに、心理テストやワークなどを通して、自分の興味・関心、価値観、得意なこと・苦手なことなどを整理し、自己理解を深める。 ・大学で学ぶことの意味、学問と仕事とのつながり、社会で求められる力、職業選択やキャリア形成について考える。自分の現在の姿を出発点として、大学4年間をどのように過ごし、どのような力を身につけたいのかを考え、自分なりのキャリアをデザインすることを目指す。							
受講登録以前に準備すること							
なし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 入門
科目名	キャリアデザインを学ぶⅡ
・一方的な座学はなるべく避け、グループワークや動画などを活用しながら、学生が実際に考えたり、話したり、書いたりする授業にしていけます。 ・学生が自分自身について考え、将来を具体的にイメージできるよう、講義だけでなく、個人ワーク、グループワーク、心理テスト、動画教材、事例紹介などを組み合わせた参加型の授業を行う。 ・毎回の授業では、身近なテーマや具体的な事例を取り上げ、「自分だったらどうするか」「自分は何を大切にしているのか」を考える機会を設ける。また、ワークシートへの記入や学生同士の意見交換を通して、自分の考えを言葉にする力を養う。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	自分の未来を考えよう
第3回	自己理解①
第4回	自己理解②
第5回	学生時代を有意義に
第6回	社会人基礎力を知る①
第7回	社会人基礎力を知る②
第8回	キャリアデザインの基礎①
第9回	キャリアデザインの基礎②
第10回	キャリアデザインの基礎③

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 入門	
科目名	キャリアデザインを学ぶⅡ	
第11回	働くを考える①	
第12回	働くを考える②	
第13回	働くを考える③	
第14回	働くを考える④	
第15回	総まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の積極的参加(50%)、期末レポート(50%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		共通科目 国際コミュニケーション(基礎)					
科目名		言葉と理解 I					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	黄 美花		
到達目標							
・直接自分につながりのある領域で頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。 ・指定された読み物から情報を取り出し、説明することができる。 ・学校・余暇などの場面でふだん出会う、ごく身近な事柄について、共通語で明瞭に話されたものなら要点を理解できる。							
成績評価の方法							
授業への参加度30%(2点×15回)、課題(宿題含む)30%(5点×6回)、聴解20%(5点×4回)、ミニ発表20%(5点×4回)により総合的に評価する。							
テキスト							
・指定テキストは特になし。 ・必要に応じて、その都度ハンドアウトを配布する。							
その他							
・アクティビティに積極的に参加すること。 ・学習した日本語はできるだけ使うように心がけること。							
講義内容							
・授業の主な言語活動は、「理解すること(聞くこと＋読むこと)」(B1レベル)である。読む活動に加えて、読んだ内容を簡単に説明する練習も行う。 ・N3の聴解練習を行う。							
受講登録以前に準備すること							
特になし。							
取得可能な資格							
特になし。							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	言葉と理解 I
・「読む＋話す」、「聞く＋話す」活動を繰り返し行う。 ・ルーブリック表を用い、評価及びフィードバックを行う。 ・学期はじめに設定した各テーマに沿って、各自で週4時間程度の予・復習が必要となる。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション、レベルテスト (※初回レベルテストを行うので、必ず参加すること)
第2回	読み物①(語彙・表現)
第3回	読み物①(理解・説明)
第4回	読み物②(語彙・表現)
第5回	読み物②(理解・説明)
第6回	聴解練習(復習)①、解答と解説
第7回	聴解練習(復習)②、解答と解説
第8回	読み物③(語彙・表現)
第9回	読み物③(理解・説明)
第10回	読み物④(語彙・表現)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	言葉と理解 I	
第11回	読み物④(理解・説明)	
第12回	聴解練習(復習)③、解答と解説	
第13回	聴解練習(復習)④、解答と解説	
第14回	全体発表会①、課題の振り返り	
第15回	全体発表会②、フィードバック	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加度30%(2点×15回)、課題(宿題含む)30%(5点×6回)
その他	40	聴解20%(5点×4回)、ミニ発表20%(5点×4回)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 健康・科学						
科目名	健康と心理を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	前田 潤		
到達目標							
・こころと身体と社会の繋がりを理解する ・健康で健全な生活や暮らしや人間関係について理解する ・ストレスとストレスマネジメントを理解する ・ロールセオリーとポリヴェーガル理論を理解する ・自分の生き方や社会生活に学びを生かすことができる							
成績評価の方法							
毎回小レポートを課し、それによって成績評価する。 15回を10点満点で採点し、合計点÷1.5で100%成績を出す。 60点以上が合格。							
テキスト							
テキストは使用しない。必要な場合にはプリントなどを配布する							
その他							
特になし							
講義内容							
本講義では、健康を「こころ・からだ・社会」の相互作用として捉え、人の人生や発達、こころの健康と病について基礎から学ぶ。ストレスとストレスマネジメント、ロールセオリーおよびポリヴェーガル理論を理論的枠組みとし、自己理解や対人関係、社会との関わりを多角的に考察する。さらに、トラウマ体験や逆境的小児期体験が心身および社会に及ぼす影響を理解し、それらを乗り越える回復の視点についても学ぶ。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
なし。							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 健康・科学
科目名	健康と心理を学ぶ
講義及び演習、グループワークなどその都度講義内容に応じて適切な方法で実施する。 ・授業は、対話形式を重視し、学生諸君の積極的な発言や能動的参加が欠かせません。 1.最初に挨拶 2.それぞれの近況報告や本日の講義に対する興味関心を確認 3.発言しやすい雰囲気づくり	
授業計画	
第1回	講義に関するオリエンテーション及び「健康と心理学を学ぶ」に関する講義概要
第2回	ひとの人生をこころとからだ、社会という観点から学ぶ①
第3回	ひとの人生をこころとからだ、社会という観点から学ぶ②
第4回	ストレスとストレスマネジメント
第5回	こころの健康と病
第6回	役割という観点から学ぶー ロールセオリー
第7回	こころとからだと社会の関係を学ぶ ポリヴェーガル理論
第8回	ロールセオリーとポリヴェーガル理論①
第9回	ロールセオリーとポリヴェーガル理論②
第10回	自己理解ーロールセオリーとポリヴェーガル理論から

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康・科学	
科目名	健康と心理を学ぶ	
第11回	自分と他者を学ぶーロールセオリーとポリヴェーガル理論から	
第12回	自分と他者と社会を学ぶ ロールセオリーとポリヴェーガル理論から	
第13回	トラウマ体験と逆境的小児期体験の影響	
第14回	トラウマ体験と逆境的小児期体験の影響を乗り越える	
第15回	こころとからだと社会の健康について	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の小レポートの提出で成績を出す。 15回×10点÷1.5で計算する。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 健康・科学						
科目名	食と健康を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	オンライン	担当教員	樋口 葵		
到達目標							
食文化の定義、その変遷を理解できる。 食文化に関する興味あるテーマや課題、あるいは問題点を見出すとともに、それらを表現することができる。 食文化の学びの意義を伝えることができる。 年中行事や通過儀礼食、郷土料理、土産文化を理解し、他者へ伝えることができる。							
成績評価の方法							
リアクションペーパーを含む小レポート(50%:5点×10回)、レポート(50%)							
テキスト							
特になし							
その他							
授業の進み具合、学生の受講人数によって内容は変更する場合もある。							
講義内容							
「和食」が2013年にユネスコ無形文化遺産に登録され、バランスがよく健康的な食事として諸外国から関心が高まっている。本授業では、世界の食文化形成をはじめ、日本の自然、とりわけ北海道の自然と社会環境で形成されてきた食文化について、現代までにどのように変化してきたかを学習する。また、年中行事や通過儀礼食、各地の郷土料理の事例を通しながら、今後の食文化伝承のため伝えていく大切さを教授する。また、土産文化についても言及する。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 健康・科学
科目名	食と健康を学ぶ
講師によるレクチャーが中心だが、適宜ディスカッションなども行い、学生同士が議論したり、調べたことを話したりする機会もつくる。また、事前にテーマを設ける予定で、そのテーマに沿って事前に各自で週4時間程度の予習・復習が必要となる。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	食文化の定義
第3回	世界の食文化の形成①(多様な食文化・食文化の伝播)
第4回	世界の食文化の形成②(世界の料理文化圏)
第5回	世界の食文化の形成③(世界中の料理の変遷①)
第6回	世界の食文化の形成④(世界中の料理の変遷②)
第7回	世界の食文化の形成⑤(食事作法)
第8回	日本の食文化形成と展開
第9回	日本料理の形成と発展
第10回	北海道の食文化と社会的環境

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康・科学	
科目名	食と健康を学ぶ	
第11回	日本各地の郷土料理	
第12回	北海道の郷土料理①	
第13回	北海道の郷土料理②	
第14回	土産文化	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	リアクションペーパーを含む小レポート(50%:5点×10回)、レポート(50%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		一般教育科目 情報					
科目名		ITソリューションについて学ぶ					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	末富 弘		
到達目標							
・スマートフォンやインターネットが社会でどのように使われているか説明できる。 ・コンピュータやネットワークの基本的な仕組みを理解する。 ・情報を安全に活用し、自分で正しく判断できるようになる。							
成績評価の方法							
期末レポート55点、毎回の受講評価45点(1～3点×15回) で評価する。合計100点。60点以上が合格である・5回以上の欠席は単位を認定しない。							
テキスト							
都度配布する。 参考文献:『情報化時代の基礎知識 第4版』 著者:岡田工・福崎稔(編著)、守屋政平ほか 出版社:ポラール出版 出版年:2025年4月 ページ数:221ページ ISBN:978-4-908765-44-5							
その他							
実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向) 1998～2011 北洋銀行 (2000～2007 北海道TLO出向) 2020～ 苫小牧信用金庫非常勤アドバイザー							
講義内容							
現代は情報化社会と言われており、ビジネスでも社会生活でも情報の活用は不可欠である、情報化社会の歴史と現代の状況を学修し、その活用法や留意点について身につけ、今後のキャリア形成につなげる。							
受講登録以前に準備すること							
特になし。							
取得可能な資格							
特になし。							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 情報
科目名	ITソリューションについて学ぶ
教員による対面講義が基本であるが、ゲストスピーカーによる講義(オンラインの場合もあり)もある。(ゲストスピーカーの回は未確定・確定しだい編集可能性あり) 事前配布された資料で2時間の予習(記載事項の理解)を行い、講義終了後に2時間の復習(授業内容の確認と習得)を行って補完する。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション・情報社会とは何か
第2回	情報化社会の歴史①(電話からインターネットへ)
第3回	情報化社会の歴史②(スマートフォンの普及)
第4回	AI・SNS・キャッシュレス社会
第5回	コンピュータの仕組み
第6回	ソフトウェア・クラウド・データ
第7回	インターネットの仕組み
第8回	Wi-Fi・通信・ネットワーク
第9回	情報通信と社会
第10回	【ゲストスピーカー・吉川浩二氏担当】情報と社会の関係(情報化が社会に与える影響)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 情報	
科目名	ITソリューションについて学ぶ	
第11回	【ゲストスピーカー・吉川浩二氏担当】情報と社会の関係(情報倫理やセキュリティの基礎)	
第12回	情報リテラシー	
第13回	生成AIとの付き合い方	
第14回	情報セキュリティ・情報倫理	
第15回	まとめ・期末レポートの説明	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	期末レポート55点、毎回の受講評価45点(1～3点×15回)で評価する。合計100点。60点以上が合格である・5回以上の欠席は単位を認定しない。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 言語						
科目名	文学について学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C103	担当教員	星野 芳輝		
到達目標							
日本文学を通じ、日本文化、歴史背景を学び、日本文化への理解を深める。 日本の文芸作品を楽しみ、その文化的概要を学ぶ。							
成績評価の方法							
講義への積極的参加15回×3点(45%) 期末レポート55点(55%)							
テキスト							
なし							
その他							
講義内容は変更になる可能性があります。 指定された文献の事前学習(4時間程度)							
講義内容							
日本文学における変遷と作品概要の学習							
受講登録以前に準備すること							
指定された資料の事前学習(4時間程度)							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 言語
科目名	文学について学ぶ
日本文学における各作品についての解説を行う。また、その前提知識としての時代背景、文化的背景、古語知識など、周辺知識の解説を行う。 基本は講義形式で行い、質疑があれば適宜受け付ける。	
授業計画	
第1回	ガイダンス 講義計画のアナウンス
第2回	日本文学の概要
第3回	上代文学 古事記と万葉集
第4回	平安文学 源氏物語、枕草子
第5回	中世文学 徒然草
第6回	江戸の文学 松尾芭蕉と俳諧
第7回	江戸の文学 東海道中膝栗毛
第8回	近代文学 近代化する社会と日本の文芸
第9回	昭和の文学 戦前から戦後
第10回	昭和の文学 高度経済成長下の日本

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 言語	
科目名	文学について学ぶ	
第11回	平成の文学 ポストモダンと多様性	
第12回	日本の「文学」ライトノベル	
第13回	日本の「文学」漫画	
第14回	日本の「文学」とオタク文化	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義への積極的参加15回×3点(45%)
その他	55	期末レポート55点(55%)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	国際関係と経済を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	オンライン	担当教員	麻生川 静男		
到達目標							
1. 世界の各文化圏の特徴を歴史的視点から説明することができる。 2. 自分の国の長所・短所を国際比較の観点で冷静に判断できる。 3. 現在の国際情勢について、自分なりの考えを構築できる。 4. 今後のグローバル社会をどのように生きていけばよいか確信がもてる。							
成績評価の方法							
授業参加度 — 30点 毎回の授業まとめ — 70点							
テキスト							
項目が多岐に渡るため、テキストはありません。ただし、單元ごとに参考文献を紹介します。授業の後で各人が関心のあるテーマに関し、自主的に選択して読んでください。							
その他							
講義内容							
現代の世界は、政治、経済、文化、あらゆる面で国際化(グローバル化)が進展しています。どの国も国内事情だけで、政治を決めることはできなくなっています。 多岐にわたる国際関係の複雑なからみあいの中で、一市民として自分の国の問題だけでなく、国際情勢に関しても高い見識を持つことが、今後の世界平和と発展のためには重要です。							
受講登録以前に準備すること							
取得可能な資格							
授業の方法							

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	国際関係と経済を学ぶ	
基本は講義ですが、授業中では学生に質問することが多くあります。また、あるテーマに関して議論することが発生するでしょう。いずれの場合も、積極的な発言が求められます。自主的で積極的な授業参加を期待します。 復習は授業に使ったスライド資料を再読し、自分で考えを深めること。(予習、復習に合計で4時間かけること)		
授業計画		
第1回	自己紹介、授業内容の概要	
	担当教員	麻生川 静男
第2回	欧米の歴史と文化(その1)	
	担当教員	麻生川 静男
第3回	欧米の歴史と文化(その2)	
	担当教員	麻生川 静男
第4回	東欧・ロシア・ウクライナの歴史と文化	
	担当教員	麻生川 静男
第5回	イスラム・中央アジアの歴史と文化	
	担当教員	麻生川 静男
第6回	アフリカ・南太平洋の歴史と文化	
	担当教員	麻生川 静男
第7回	インド・東南アジアの歴史と文化	
	担当教員	麻生川 静男
第8回	中国の歴史と文化	
	担当教員	麻生川 静男

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	国際関係と経済を学ぶ	
第9回	朝鮮・韓国の歴史と文化	
	担当教員	麻生川 静男
第10回	日本の歴史と文化	
	担当教員	麻生川 静男
第11回	文明の対立、宗教の対立	
	担当教員	麻生川 静男
第12回	戦争・地域紛争、領土問題、政治体制の対立	
	担当教員	麻生川 静男
第13回	地球規模の環境問題、資源問題、ゴミ問題	
	担当教員	麻生川 静男
第14回	自由・人権問題、SDGs、奴隷問題、南北問題	
	担当教員	麻生川 静男
第15回	自らの力で国際関係を考えることができるために	
	担当教員	麻生川 静男
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	発言等による授業参加態度が成績の30%を占めます。 毎回の授業の後に、短いまとめ(授業内容に対する自分の意見、コメント等)を提出してもらいます。その内容が、成績の70%を占めます。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	国際関係と経済を学ぶ	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	経済の知識を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C103	担当教員	中田 和則		
到達目標							
経済学を基礎を学び、社会経済の仕組みについて、自分の頭で考え判断できるようになることを到達目標とする。国や社会の現状分析、地域社会の発展に貢献していくための社会人としての基礎力を養う。							
成績評価の方法							
授業参画(50%)とレポート(50%)の成績合計100点。特別な理由のある欠席は4回まで認める。5回以上の欠席は単位を認めない。							
テキスト							
・ 中谷武・中村保編 2010年「1からの経済学」碩学舎 ・ 日本経済新聞							
その他							
公務員試験を受験する場合は、経済学の基礎知識は必修。							
講義内容							
経済学の基礎として、ミクロ経済学、マクロ経済学の各項目を採り上げ講義し学習する。理解を深めてもらうため、問題演習も適時、実施する。							
受講登録以前に準備すること							
日頃、新聞やニュースなどの経済記事や報道に関心を高め、経済学的なマインドを醸成しておくこと。							
取得可能な資格							
特になし。							
授業の方法							

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	経済の知識を学ぶ	
講義形式で進めるが、講義中に、随時、出席者の発言や意見を求める。積極的な授業参画も採点する。適時、問題演習（公務員試験等の経済問題）も取り入れる。毎回、予復習に4時間程度が必要。		
授業計画		
第1回	オリエンテーション ・経済学とは何か、経済学の考え方	
	担当教員	中田 和則
第2回	ミクロ経済学の基礎 ・分業の利益	
	担当教員	中田 和則
第3回	ミクロ経済学の基礎 ・需要と供給	
	担当教員	中田 和則
第4回	ミクロ経済学の基礎 ・価格メカニズム	
	担当教員	中田 和則
第5回	ミクロ経済学の基礎 ・市場の効率性	
	担当教員	中田 和則
第6回	ミクロ経済学の基礎 ・市場の失敗	
	担当教員	中田 和則
第7回	ミクロ経済学の基礎 ・市場の限界	
	担当教員	中田 和則
第8回	ミクロ経済学の基礎 ・労働市場	
	担当教員	中田 和則

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	経済の知識を学ぶ	
第9回	マクロ経済学の基礎 ・GDPとは何か,何がGDPを決めるのか	
	担当教員	中田 和則
第10回	マクロ経済学の基礎 ・消費需要と投資需要	
	担当教員	中田 和則
第11回	マクロ経済学の基礎 ・貨幣と金融	
	担当教員	中田 和則
第12回	マクロ経済学の基礎 ・政府の役割	
	担当教員	中田 和則
第13回	マクロ経済学の基礎 ・外国貿易と為替レート	
	担当教員	中田 和則
第14回	マクロ経済学の基礎 ・経済成長と国民生活	
	担当教員	中田 和則
第15回	まとめ ・問題演習	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参画(50%)と+レポート(50%)の成績合計100点。特別な理由のある欠席は4回まで認める。5回以上の欠席は単位を認めない。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	経済の知識を学ぶ	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	政治の知識を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	西川 祥一		
到達目標							
1 政治学の基本的な概念と各分野で問題となっているテーマを述べることができる。 2 一般教教育科目として、大学生が常識として持っておくべき政治の知識を説明できる。							
成績評価の方法							
授業への積極的参加(25%)、中間試験(25%)、期末レポート(50%)を基本に、総合的に評価します。							
テキスト							
オリジナルな資料を用意します。							
その他							
講義内容							
今、政治学では何が問題となっているのか。なぜそれが争点になっているのか。その批判は的を得ているのか。「日本政治」「公務員制度」「地方自治制度」「国際政治」「政治思想」などの分野を対象に、これらの問題意識で今日の政治の構造や問題を検討する。体系的に政治学を概観するのではなく、ホットで現在問題となっているテーマや事例を、新聞記事や動画などで紹介し、またワークも使いながら解説していく。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
なし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 社会
科目名	政治の知識を学ぶ
基本的にパワポをつかってわかりやすく説明していくつもりです。選挙、国会、マスメディアなどのテーマの際は、新聞記事なども資料に使い多角的に授業を進めるつもりです。7回目か8回目で、それまでの講義の理解度をチェックする中間試験を行います。理解度をみて、後半の講義内容を修正していきます。 1回の授業ごとに、 予習(2時間) 次回の授業で取り上げる内容についておおまかな流れをつかんでおく。 復習(2時間) 授業で取り上げた重要なポイントを中心に、見直し、論点を整理する。	
授業計画	
第1回	政治学って何を考える学問？ 政治って、自分たちに関係ある？
第2回	首相はなぜ辞めるのか？ 政党政治のリアル「本当は、首相は国民が選んでいる？」
第3回	政治家はなぜSNSを使うのか。 SNSは政治を民主化した？
第4回	「政治家は信用できない」は本当か？ 政治不信はなぜ生まれる？
第5回	公務員は多すぎるのか？「公務員バッシング」は正しい？
第6回	官僚は政治家より強い？ 誰が政策をつくっている？
第7回	中間試験
第8回	地方自治、地方は国の言うことを聞くしかない？ 国と自治体、どちらが強い？
第9回	「地方議会って何してるの？」地方政治は本当に形骸化している？
第10回	「税金は高すぎか」、福祉国家を考える。政府はどこまで面倒を見るべ

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	政治の知識を学ぶ	
第11回	「官から民へ」は正しかった？ 民営化・新自由主義を再考する	
第12回	戦争はどう始まるのか。 戦争は「武力」だけなのか？	
第13回	選挙に行かないのは悪いこと？ 若者の低投票率をどう考える？	
第14回	SNS・AI・フェイクニュースと民主主義 情報がどのほど民主主義は強くなる？	
第15回	民主主義は終わったのか？ 私たちは政治を変えられる？	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の積極的参加(40%)や中間試験(30%)期末課題・レポート評価(30%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	日本国憲法を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	オンライン	担当教員	永田 均		
到達目標							
日本の根本的基本法である憲法の基礎理解を可能とする。 日本国憲法の構成を見ながら、憲法上の基本的理解、社会の現状を反映する状況を確認しながら、憲法の理解を深め、憲法の基礎知識を獲得する。							
成績評価の方法							
授業時間数の3分の2以上出席していない場合は試験受験の資格を失う。 1、レポート 30点（授業15回中1回実施） 2、期末テスト 70点（授業15回中1回実施） 1、2、を基本に最終的には出席率を考慮し、総合判断する。							
テキスト							
「憲法学読本 第4版」(安西・巻・宍戸共著)有斐閣 2024/12(本体 2,700円)							
その他							
授業で使ったスライド、課題出題サイトの用語確認、さらに参考書などで復習してください。 参考書 さらに進んで勉強したい人は、以下を使用してください。 憲法 第8版 芦部 信喜(著)、高橋 和之(著)、岩波書店 アメリカ憲法入門(第9版)(外国法入門双書)松井茂記(著)、有斐閣 憲法判例集(12版)有斐閣新書(渋谷秀樹編著)							
講義内容							
日本国憲法の各テーマを通じて法的に思考力をつけるとともに、日本国憲法の基本思想である、基本的人権の保障、自由・平等権、平和主義についての理解を深める。 以下の授業項目は、状況により適宜順序を入れ替えるものとする。							
受講登録以前に準備すること							
特にないが、日常の時事問題など社会の問題に積極的に関心を持つこと。							
取得可能な資格							
憲法科目を前提にする各資格試験があり、 行政書士・宅地建物取引士や各種公務員試験(憲法・法学の知識が必要)の基礎科目になっている。							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 社会
科目名	日本国憲法を学ぶ
基本的にはパワーポイントによるリモート講義を実施。 予習復習は、各授業前後2時間前後実施を希望。	
授業計画	
第1回	日本国憲法の構造(明治憲法と比較) 日本国憲法の基本的構造(明治憲法と比較) 日本国憲法の3大基本原則
第2回	日本国憲法と明治憲法との比較 天皇主権から国民主権へはなぜ実現できたか
第3回	天皇の人間宣言 象徴天皇とは？
第4回	天皇の行為と内閣の承認 天皇の生活費用
第5回	王権から人権・国民主権の淵源 人権の淵源、モンテスキュー、トマス・ホッブズ、ジャン・ロック、ジャン＝ジャック・ルソー
第6回	様々な人権、自由権から社会権へ 信教・表現・学問・婚姻・勤労の自由と制限 労働基本権
第7回	1) 新しい人権とは 2) 中間テスト課題提出 課題テストへの解答への注意点を説明、文書作成、引用方法、段落、整理記号の使用等
第8回	1) 法の下での平等と是正措置としてのアファーマチブアクションの可否 2) 中間テスト解答への反省点等、講評、解答の注意点を説明
第9回	法の下での平等とアファーマチブアクション アファーマチブアクションは逆差別か アファーマチブアクションと社会における、性・人種差別への是非
第10回	統治の基本原理・構造 国民による統治と選挙制度

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	日本国憲法を学ぶ	
第11回	三権分立・法の支配・国民主権	
第12回	立法と国会の役割 地方自治体の立法権	
第13回	内閣と行政権 議院内閣制と国会 地方自治	
第14回	1) 地方自治、外国人に日本国憲法上の保障が及ぶか、 外国人の参政権、外国人の生存権、生活保護 2) 司法と裁判所 3) 最終テスト問題の提示、解答方法、文書作成上の注意点等の説明	
第15回	テスト課題提出と結果への講評、解答文から見る作成上の注意点を説明	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	70	15回授業中1回の試験実施にて採点。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	30	15回授業中1回のレポートで採点。
その他	0	上記の総合点に、最終的には出席率も考慮し、総合判断する。

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 文化						
科目名	歴史学を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	種石 悠		
到達目標							
古代東北地方において蝦夷と呼ばれた集団がどのような人びとであったのか、またそれと対峙した畿内政権の政策がどのようなものであったのかを理解する。 講義を通じて、歴史学の基本的な調査・研究の方法についても理解することを目指す。							
成績評価の方法							
講義後のリアクションペーパー(3点×15回、45%)、期末レポート(55点、55%)							
テキスト							
熊谷公男 2004年『古代の蝦夷と城柵』吉川弘文館 ※すでに絶版なので、古本等で入手するようにしてください。							
その他							
講義内容							
古代東北地方には「蝦夷(えみし)」と呼ばれた人たちがいた。 近年、文献史学や考古学の研究により、蝦夷がどのような人びとであったのか、またそれと対峙した古代日本国家の政策がどのようなものであったのか、新たな知見が加わりつつある。 講義を通じて、新たに判明した古代蝦夷論について解説する。また随時、歴史学研究の方法論についても解説する。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 文化
科目名	歴史学を学ぶ
テキストに沿いながら解説する。適宜、スライドを用いる。講義の終了後、受講者にリアクションペーパーに記入いただく。講義はテキストを一章ずつ解説してゆくので、講義前にわからない語句等を2時間をかけて予習し、講義後は関連文献などを用いて2時間をかけて復習を行なう。	
授業計画	
第1回	ガイダンス 古代蝦夷の研究史について
第2回	蝦夷観念の形成
第3回	蝦夷認識の観念性と現実性
第4回	蝦夷論と考古資料
第5回	南北両世界の交流
第6回	倭王権の蝦夷政策①
第7回	倭王権の蝦夷政策②
第8回	大化改新と蝦夷政策
第9回	初現期の「柵」
第10回	城柵の形成と南北交流①

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 文化	
科目名	歴史学を学ぶ	
第11回	城柵の形成と南北交流②	
第12回	蝦夷の戦闘能力と社会①	
第13回	蝦夷の戦闘能力と社会②	
第14回	諸国移配蝦夷からみた蝦夷文化	
第15回	新たな東北古代史研究に向けて	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義後のリアクションペーパー 3点×15回
その他	55	期末レポート 55点

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 文化						
科目名	異文化コミュニケーションを学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	杉山 維彦		
到達目標							
1. 文化的背景を異にする人々が出会い、結びつき、協同する社会がますます拡大していることを理解する 2. 異文化理解について、文化人類学、社会学、宗教学、比較文明学の知見から総合的に捉える 3. 現代世界の抱えるさまざまな問題を事例として取り上げつつ、平和と共生の地球社会を構築するための方途を探る							
成績評価の方法							
授業内での評価 50% (コメントシート(20%)、発表(20%)、ディスカッション(10%)) 定期試験に代わるレポート 50%							
テキスト							
特になし							
その他							
配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で抜き打ちで発表やディスカッションをしてもらうので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 定期試験(期末レポート)を実施するが詳細は授業内で発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。 Schedules are subject to change without notice.							
講義内容							
多文化が共生するコミュニティの基本的な概念と、日本各地の外国人が多く在住する地域の事例を学び、「多文化コミュニティ」という社会的課題を、異文化理解の見地から学ぶ。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 文化
科目名	異文化コミュニケーションを学ぶ
本学の留学生も含み日本に滞在する外国人と日本の文化の違いから、多文化社会と異文化コミュニケーションについて講義する。 授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。 【事前学習】各回の授業テーマに該当する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。(週各2時間)。 【事後学習】授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は教員へ連絡する(週各2時間)。	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス
第2回	文化・文明の基礎①(文化)
第3回	文化・文明の基礎②(異文化)
第4回	文化・文明の基礎③(古代文明)
第5回	文化・文明の基礎④(近代文明)
第6回	文化・文明の衝突①(ステレオタイプ)
第7回	文化・文明の衝突②(異文化相違)
第8回	文明・文明の衝突③(ナショナリズム)
第9回	文化・文明の衝突④(宗教)
第10回	文化・文明の衝突⑤(日本での異文化問題)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 文化	
科目名	異文化コミュニケーションを学ぶ	
第11回	文化・文明の衝突⑥(ハンチントンの提唱)	
第12回	異文化コミュニケーション①(多文化共生)	
第13回	異文化コミュニケーション②(マイノリティ)	
第14回	文化交流・相互理解	
第15回	エピローグ & まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での評価60%(授業内での課題(20)・質疑応答(10)・異文化体験のプレゼンテーション(30))
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 文化						
科目名	多文化共生を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	末富 弘		
到達目標							
・経営学の基礎を学修し、説明できるようになる。 ・日本はグローバル化の進展により、多文化社会になってきたが、その中での経営戦略について学修する。 ・今後の多文化社会の在り方について提言をまとめる。							
成績評価の方法							
期末レポート55点、毎回の受講評価45点(1～3点×15回) で評価する。合計100点。60点以上が合格である・5回以上の欠席は単位を認定しない。							
テキスト							
都度、配布する。							
その他							
“実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向) 1998～2011 北洋銀行 (2000～2007 北海道TLO出向) 2011～ 苫小牧信用金庫”							
講義内容							
“・経営学の基礎を学修し、説明できるようになる。 ・日本はグローバル化の進展により、多文化社会になってきたが、その中での経営戦略について学修する。 ・今後の多文化社会の在り方について提言をまとめる。”							
受講登録以前に準備すること							
「東京都多文化共生推進指針概要版」を読んでおくこと。 https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seikatubunka/1_summary-with-furigana-_20250606 「札幌市多文化共生・国際交流基本方針概要版」を読んでおくこと。 https://www.city.sapporo.jp/kokusai/policy2023.html ”							
取得可能な資格							
特になし。							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 文化
科目名	多文化共生を学ぶ
教員による対面講義が基本であるが、ゲストスピーカーによる講義(オンラインの場合もあり)もある。(ゲストスピーカーの回は未確定・確定しだい編集可能性あり) 事前配布された資料で2時間の予習(記載事項の理解)を行い、講義終了後に2時間の復習(授業内容の確認と習得)を行って補完する。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	経営学入門(経営戦略①)について学修する。
第3回	経営学入門(経営戦略②)について学修する。
第4回	経営学入門(マーケティング①)について学修する。
第5回	経営学入門(マーケティング2)について学修する。
第6回	東京都の外国人対応について学修する。①
第7回	東京都の外国人対応について学修する。②
第8回	札幌市の外交人対応について学修する。①
第9回	札幌市の外交人対応について学修する。②
第10回	札幌市の外交人対応について学修する。③

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 文化	
科目名	多文化共生を学ぶ	
第11回	経営管理論(海外進出)について学修する。①	
第12回	経営管理論(海外進出)について学修する。②	
第13回	経営管理論(海外進出)について学修する。③	
第14回	多文化社会の在り方について提言をまとめる。①	
第15回	多文化社会の在り方について提言をまとめる。②	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	期末レポート55点、毎回の受講評価45点(1～3点×15回)で評価する。合計100点。60点以上が合格である・5回以上の欠席は単位を認定しない。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 健康・科学						
科目名	スポーツとキャリアを学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	山中 慎		
到達目標							
・スポーツ業界の実績を詳しく説明できる ・スポーツビジネスに必要なことを論じることができる ・自分のキャリアを築くために必要なことを挙げることができる							
成績評価の方法							
評価方法: 毎回の講義内レポート 15回目レポート課題 評価割合: 講義内レポート(84%) 15回目レポート課題(16%)							
テキスト							
特になし							
その他							
特になし							
講義内容							
・今年度は2名の外部講師(オリンピック代表選手を含む)を招き、事前学習を含めてスポーツとキャリアについて講師に発問する。また、ビデオ学習にて選手・指導者の仕事の流儀を考察し、レポートする。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 健康・科学
科目名	スポーツとキャリアを学ぶ
・講義形式 ・学生による発表を主体にします)1回の講義について ・予習(2時間):講義で取り上げる内容などにより、講義のおおまかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各講義の終了時に説明する。 ・復習(2時間):講義で取り上げた重要なポイントを中心に、見直し、論点を整理すること。	
授業計画	
第1回	ガイダンス 準備学習:シラバスを読んで受講上の注意点について事前に調べておく
第2回	ビデオ学習(仕事の流儀①) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第3回	ビデオ学習(仕事の流儀②) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第4回	外部講師対策(事前学習) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第5回	外部講師による講義予定1 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第6回	ビデオ学習(仕事の流儀③) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第7回	ビデオ学習(仕事の流儀④) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第8回	仕事の流儀全4回振り返りまとめ 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第9回	ビデオ学習(プロジェクトX①) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する
第10回	ビデオ学習(プロジェクトX②) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康・科学	
科目名	スポーツとキャリアを学ぶ	
第11回	外部講師対策(事前学習) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第12回	外部講師による講義予定2 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第13回	ビデオ学習(プロジェクトX③) 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第14回	プロジェクトX全3回振り返りまとめ 準備学習:前回の講義で最後に伝えた内容を予習する	
第15回	講義振り返り課題 準備学習:外部講師2名のまとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	評価方法:毎回の講義内レポート 15回目レポート課題 評価割合:講義内レポート(14回/84点84%) 15回目レポート課題(1回/16点16%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 健康・科学						
科目名	自然科学を学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C102	担当教員	山中 慎		
到達目標							
現在、世界で起こっている事象と関連させ、理解を深め、それについての意見が言える。							
成績評価の方法							
評価方法:講義内プリント課題/15回目理解力レポート 評価割合:講義内プリント課題(84%)15回目理解力レポート(16%)							
テキスト							
メイン教材 イラスト&図解 知識ゼロでも楽しく読めるエネルギーのしくみ:株式会社西東社 サブ教材 わたしたちの地理総合:二宮書店							
その他							
特になし							
講義内容							
高等学校で学んだ地理総合を分かりやすく読み解く。 エネルギー問題・地球温暖化問題を中心に、映像を活用しながら学んでいく。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 健康・科学
科目名	自然科学を学ぶ
講義式 ビデオ学習 授業内提出プリント(問題式解答) 1回の講義について ・予習(2時間):講義で取り上げる内容などにより、講義のおおまかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各講義の終了時に説明する。	
授業計画	
第1回	ガイダンス 事前にシラバスを読んで内容に関して調べておく。
第2回	エネルギーのしくみ① 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習
第3回	エネルギーのしくみ② 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習
第4回	エネルギーのしくみ③ 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習
第5回	エネルギーのしくみ④ 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習
第6回	エネルギーのあれこれ① 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習
第7回	エネルギーのあれこれ② 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習
第8回	エネルギーのあれこれ③ 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習
第9回	エネルギーのあれこれ④ 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習
第10回	エネルギーと世界の事情① 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康・科学	
科目名	自然科学を学ぶ	
第11回	エネルギーと世界の事情② 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習	
第12回	エネルギーと世界の事情③ 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習	
第13回	エネルギーと世界の事情④ 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習	
第14回	明日話したくなるエネルギーの話 準備学習:講義内容について、教科書該当ページの予習	
第15回	総合問題(理解力テスト) 準備学習:今まで使用したプリントの予習	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	評価方法:講義内プリント課題/15回目理解力レポート 評価割合:講義内プリント課題(14回/84点84%)15回目理解力レポート(1回/16点16%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	ジェンダーを学ぶ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	尾野 裕子		
到達目標							
・ジェンダーをめぐる問題が、どのような経緯で生じるかを説明することができる。 ・多様な生き方を認め合う、相互尊重の姿勢を実践できる。							
成績評価の方法							
第1回～第15回のうちに行う下記の課題にて評価します。 小テスト2回×20%、プレゼンテーション2回×20%、まとめ1回×20%							
テキスト							
なし							
その他							
翻訳アプリを使わずに授業を聴講し、他の学生と日本語でコミュニケーションを取れる学生のみ受講を許可します。日本語能力が不足していると思われる学生には、受講をお断りすることがありますので、ご了承ください。							
講義内容							
ジェンダーとは、社会的、文化的に作られる性別のことを指します。この講義では様々なニュース、データ、書類に触れながら、ジェンダーについて考察していきます。 また、講義の中でグループワークの時間を設け、体験的に相互尊重を学んでいきます。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 社会
科目名	ジェンダーを学ぶ
講師の準備する資料をもとに、講義を進めます。 予習として、ジェンダー関連の用語を調べたり、ジェンダーに関する新聞の記事を読んでください(40分程度)。 復習として、講義内容の振り返りを行い、理解が不足しているものがあれば復習し、さらに発展的に調べたいことがあれば探求してください(20分程度)。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	ジェンダー論概説(1) 世代とジェンダー
第3回	ジェンダー論概説(2) 現在の課題
第4回	諸外国のジェンダー
第5回	政治・法律とジェンダー
第6回	マスメディアとジェンダー
第7回	性とジェンダー(1) 多様な性
第8回	性とジェンダー(2) 恋愛、デートDV
第9回	性とジェンダー(3) ジェンダーバイアスと性犯罪
第10回	性とジェンダー(4) 性的マイノリティが守られるためには

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	ジェンダーを学ぶ	
第11回	労働とジェンダー(1)女性と労働	
第12回	労働とジェンダー(2)社会保険制度と女性の労働	
第13回	今後の展望(1)男性学の登場	
第14回	今後の展望(2)子育て、教育	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト2回×20%、プレゼンテーション2回×20%、まとめ1回×20%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		一般教育科目 文化					
科目名		哲学を学ぶ					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	宮崎 勝正		
到達目標							
・私たちの日々の経験と深く結びついた事柄を、哲学的に問い直すことができる。 ・共通のテーマについて他の学生と話し合い、異なる意見や立場を踏まえながら、自分の考えを批判的に検討することができる。 ・これから自分自身で考えていきたい哲学的な問いを立てることができる。							
成績評価の方法							
授業後のリアクションペーパー（3点×15回＝45点）と期末レポート（55点）の合計で成績を出し、60点以上を合格とします。授業内容を踏まえて自分の考えを具体的に述べているか、また、異なる見方や想定される反論を考慮しながら、その考えを吟味できているかを評価します。							
テキスト							
特になし。授業進度に応じて、適宜資料を配布します。							
その他							
講義内容							
・本授業では、哲学に関する基礎知識を学ぶだけでなく、身近な経験を手がかりに問いを立て、様々な見方を踏まえながら自分の考えを吟味することを通して、哲学的に考えるとはどのようなことかを実践的に学びます。 ・まずは、「遊び」や「面白さ」など、私たちにとって身近な題材を取り上げます。その後、「美しさ」「芸術」「理解」「言語」など、私たちの日常の経験とも深く関わる、哲学上の重要なテーマへと話題を広げていきます。 ・こうした学びを通して、学生が日々の経験のなかで自ら問いを立て、その問いについて哲学的に論じることができるようになることを目指します。							
受講登録以前に準備すること							
特になし。							
取得可能な資格							
特になし。							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 文化
科目名	哲学を学ぶ
・スライド資料などを用いて、各回のテーマをめぐる哲学上の問いを提示するとともに、それらの問いについて考える手がかりとして、いくつかの考え方や立場を整理して紹介します。 ・授業内では、少人数でのディスカッションや全体での意見交換を行うため、それらへの積極的な参加が求められます。 ・授業終了後、その日の授業のなかで自分が考えたことや、新たに生じた疑問などについて、リアクションペーパーに記述していただきます。 ・授業全体を通じて、自分でさらに考えてみたい哲学的な問いを見つけ、期末レポートでは、その問いについて議論を組み立てていきます。	
授業計画	
第1回	イントロダクション:身近なことを哲学的に考えてみる
第2回	「遊び」とは何だろうか？
第3回	「面白い」とはどういうことだろうか？
第4回	「美しい」とはどういうことだろうか？(1)
第5回	「美しい」とはどういうことだろうか？(2)
第6回	「芸術」とはどのようなものだろうか？(1)
第7回	「芸術」とはどのようなものだろうか？(2)
第8回	「分かる」とはどういうことだろうか？(1)
第9回	「分かる」とはどういうことだろうか？(2)
第10回	「ことば」とはどのようなものだろうか？(1)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 文化	
科目名	哲学を学ぶ	
第11回	「ことば」とはどのようなものだろうか？(2)	
第12回	理解の「正しさ」とは何だろうか？(1)	
第13回	理解の「正しさ」とは何だろうか？(2)	
第14回	哲学にとって「対話」とは何だろうか？	
第15回	これまでの問いを振り返り、自分自身の問いを立てる	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	55	期末レポート 55点
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	リアクションペーパー 3点×15回
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員					
科目名		博物館論(展示)					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	種石 悠		
到達目標							
人類史・自然史・美術がどのように博物館の展示として表現されるのか、また、展示のもつメッセージ性とは何か、理解できるようにする。							
成績評価の方法							
講義後のリアクションペーパー 3点×15回、45% 期末レポート 55点、55%							
テキスト							
『博物館展示論[改訂新版]』2025年発行 放送大学教育振興会							
その他							
講義内容							
博物館の種類、展示の手法、展示デザイン、展示によるコミュニケーションなど博物館展示の基本を解説する。 担当教員は元学芸員であるため、随時、参考事例についても解説する。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
博物館学芸員							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員
科目名	博物館論(展示)
テキストに沿って、解説する。随時、スライドも用いる。 毎回、講義終了後に、受講者にリアクションペーパーを記入いただく。 講義前にわからない語句等を2時間をかけて予習し、講義後は関連文献等について2時間をかけて復習すること。	
授業計画	
第1回	博物館展示論とは
第2回	展示の企画・制作
第3回	博物館建築
第4回	展示空間
第5回	展示手法
第6回	映像展示
第7回	展示の解説と伝え方
第8回	展示とコミュニケーション
第9回	大学博物館の展示
第10回	人類史の展示(民族文化と歴史)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員	
科目名	博物館論(展示)	
第11回	人類史の展示(考古資料)	
第12回	美術の展示	
第13回	自然史の展示(非生物)	
第14回	自然史の展示(生物)	
第15回	自然災害と展示	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義後のリアクションペーパー 3点×15回
その他	55	期末レポート 55点

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員					
科目名		博物館論(資料)					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C325・C326	担当教員	種石 悠		
到達目標							
博物館にとって資料はどのような意義をもつのか、またその資料をどのように扱うべきなのか、理解できるようになる。							
成績評価の方法							
毎回講義後のリアクションペーパー(45%:3点×15回=45点) 期末レポート(55%:55点×1回=55点)							
テキスト							
『博物館資料論[改訂新版]』2012年発行 放送大学振興協会							
その他							
講義内容							
収蔵資料は博物館にとって重要な存在である。資料は単なる資料であるのみならず、「文化財」でもある。また、資料に応じて、その扱い方も異なる。資料を通じて、博物館について考えていく。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
博物館学芸員							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員
科目名	博物館論(資料)
テキストに沿って、解説する。随時、スライドも用いる。 毎回、講義終了後に、受講者にリアクションペーパーを記入いただく。 講義前にわからない語句等を2時間をかけて予習し、講義後は関連文献等について2時間をかけて復習すること。	
授業計画	
第1回	博物館における資料とは
第2回	博物館資料を展示する
第3回	博物館資料の修復
第4回	大学における博物館
第5回	博物館資料としての古文書
第6回	博物館資料としての絵画
第7回	博物館資料としての個人収集品
第8回	博物館資料としての「近代文化遺産」
第9回	博物館資料としての考古遺物
第10回	博物館資料としての写真

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	学芸員(令和8(2026)年以降) 学芸員	
科目名	博物館論(資料)	
第11回	デジタル写真撮影法	
第12回	博物館資料と展示ケース論	
第13回	博物館資料の調査	
第14回	博物館資料としての民俗	
第15回	民族資料論	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義後のリアクションペーパー 3点×15回
その他	55	期末レポート

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)						
科目名	伝統文化D(アイヌ伝承技芸)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室		担当教員	長谷 仁美、内田 祐一		
到達目標							
・日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族であるアイヌ民族固有の文化および現状に関する基礎的な知識を概括的に把握し、日本の歴史・文化の多様性を理解することができる。 ・多角的な視点で物事を捉える力を養い、文化の多様性について自ら探究することができる。							
成績評価の方法							
レポート(70%) 授業参画態度・コメント・ペーパー(30%(2点×15回)) ※毎回出欠確認を行う。出欠確認を終えてからの出席は、欠席とはしないが「遅刻」として扱う。							
テキスト							
以下の文献は、授業で使用するため、必ず購入し持参すること。 文献を使用する授業において文献を持参していない場合は、教室にいても「出席」と認めることができないため、十分注意すること。 参考文献は、授業で							
【授業で各自持参する教科書】 北原モcottウナシ							
その他							
特になし							
講義内容							
文化の認識を深めるためには、体験活動を重ねることが非常に重要である。 この講義では、前半は歴史・文化の基礎的な知識を学ぶため、教科書・参考図書等を読み解き理解を深めていく。適時、映像を活用する。 後半は、前半で身につけた基礎的な知識をもとに、アイヌ文化に係る体験活動をとおして主体的に学びを深めていく。							
受講登録以前に準備すること							
受講する場合、テキストの購入準備を進めること。 ※テキストを使用する講義時は必ず持参すること。持参していない場合は、「出席」とみなすことはできません。							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)
科目名	伝統文化D(アイヌ伝承技芸)
講義形式・体験活動形式 二名の教員によるオムニバス形式 各回予習に1時間、復習に1時間を要する。 <講義形式> アイヌの歴史・文化に関する基礎知識等	
授業計画	
第1回	問題提起(長谷)
第2回	共生とは(長谷)
第3回	マジョリティの優位性 ―国外の事例―(長谷)
第4回	マジョリティの優位性 ―教科書を読み解く1―(長谷)
第5回	マジョリティの優位性 ―教科書を読み解く2―(長谷)
第6回	歴史(長谷)
第7回	歴史 2(長谷)
第8回	工芸(長谷)
第9回	伝承―映像から学ぶ―(長谷)
第10回	世界観(内田)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)	
科目名	伝統文化D(アイヌ伝承技芸)	
第11回	住まい(内田)	
第12回	生業(内田)	
第13回	子どものくらし(内田)	
第14回	食(内田)	
第15回	動植物の利用(内田)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	70	レポートとする。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	30	※毎回出欠確認を行う。出欠確認を終えてからの出席は、欠席とはしないが「遅刻」として扱い、減点する。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)						
科目名	伝統文化A(茶道)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C202	担当教員	富田 聡子		
到達目標							
1 茶道の理解及び実技を通じて、日本の「おもてなし・礼節」を実践する。 2 総合芸術である茶道を通じて「お花」「着物」などの伝統文化を理解し、実践する。							
成績評価の方法							
1 授業履修態度:50%(授業参加態度:20%、実技:30%) 2 定期試験(筆記+実技):50%							
テキスト							
講師が準備 1 裏千家茶道 2 学校茶道 初級編							
その他							
履修学生数の上限は20名(30名まで対応可)							
講義内容							
1 講師による講義・実演 2 学生による実技(お点前)							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目 (伝統文化)	
科目名	伝統文化A (茶道)	
1 シラバスに沿って進行・展開する。 2 指示された授業内容の復習 (0.5時間)、次の授業の予習 (0.5時間)を通して学修内容を補完する。 3 第1回予習0.5時間は第14回で、第15回復習0.5時間は第2回で調整し、全体で15時間の予習・復習を実施する。		
授業計画		
第1回	【講義】授業内容及び授業計画の説明 【実技】薄茶 (抹茶)を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
第2回	【講義】お茶の歴史 【実技】 ・薄茶 (抹茶)を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
第3回	【講義】茶道の心～茶道を学ぶ「茶道の四規七則」 【実技】 ・立ち居振る舞い (座り方、立ち方、お辞儀の仕方)の実践 ・薄茶 (抹茶)を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
第4回	【講義】「茶道」の成り立ちと歴史 I 【実技】 ・薄茶 (抹茶)を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
第5回	【講義】「茶道」の成り立ちと歴史 II 【実技】 ・薄茶 (抹茶)を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
第6回	【講義】千利休の生涯と利休七則 【実技】 ・割り稽古～茶巾のたたみ方、茶碗の清め方を実践する。 ・薄茶 (抹茶)を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
第7回	【講義】茶道の普及と教育 (近代・明治以降の変化)ー1 【実技】 ・割り稽古～帛紗 (ふくさ)のさばき方、棗 (なつめ)の清め方を実践する。 ・薄茶 (抹茶)を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
第8回	【講義】茶道の普及と教育 (近代・明治以降の変化)ー2 【実技】 ・割り稽古～帛紗 (ふくさ)のさばき方、棗 (なつめ)の清め方を実践する。 ・薄茶 (抹茶)を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)	
科目名	伝統文化A(茶道)	
第9回	【講義】 茶花 【実技】 ・薄茶(抹茶)を点てる、いただく。 ・割り稽古の復習	
	担当教員	富田 聡子
第10回	【講義】 「立礼」の成り立ちと発展 【実技】 ・薄茶(抹茶)を点てる、いただく。 ・割り稽古の復習	
	担当教員	富田 聡子
第11回	【講義】 茶席の正装(着物)-1 【実技】 ・浴衣を着る。 ・盆略手前でお茶を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
第12回	【講義】 茶席の正装(着物)-2 【実技】 ・浴衣を着る。 ・盆略手前でお茶を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
第13回	【講義】 茶道の基礎知識:茶会と茶席、茶道具 【実技】 盆略手前でお茶を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
第14回	【講義】 御園棚でお茶を点てる。 【実技】 盆略手前でお茶を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
第15回	【講義】 実技＋筆記試験 【実技】 盆略手前でお茶を点てる、いただく。	
	担当教員	富田 聡子
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	実技＋筆記試験(講義で学んだ内容、実技で習得した内容から出題)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業参加態度:20%、実技:30%

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目(伝統文化)	
科目名	伝統文化A(茶道)	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		共通科目 国際コミュニケーション(基礎)					
科目名		基礎ロシア語					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C204	担当教員	福本 達也		
到達目標							
ロシア語の文字と発音を正確に理解し使用できるようになる。 ロシア語の基本的な情報、文やよく使われる表現ができるようになる。 簡単で日常的な範囲ならロシア語で単純で直接的な情報交換に応じることができる。							
成績評価の方法							
授業への参加度(30%)、授業内の課題(30%)、期末試験・課題(40%)などにより、総合的に評価する。							
テキスト							
テキスト: 桑野隆(2012)『初級ロシア語20課』白水社 参考図書: 匹田剛監修(2019)『ゼロからスタートロシア語文法編』リサーチ							
その他							
授業計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。							
講義内容							
視覚教材と音声教材を使って、目と耳からロシア語を学ぶ。 基本的な文法について解説し練習する。 教材の文章を音読したり、紙に書いたり、音声を聞いたりしてロシア語を練習する。 練習問題などを使って、学んだロシア語を使えるように練習する。							
受講登録以前に準備すること							
ロシア語(1)の授業を履修していることが望ましい。							
取得可能な資格							
ロシア連邦教育省認定ロシア語検定試験(TPK)の基礎レベルの合格を目指すことができる。							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	基礎ロシア語
毎回教材の文章や単語の意味や発音について説明した後、文章や単語を音読し発音や意味を確認し練習する。音声教材を用いて、発音の確認と聞き取り練習をする。文章の文法を説明し理解させる。教材の表現を用いて対話練習をさせる。復習として課題を作成し提出させる。復習時間は毎週4時間程度必要。	
授業計画	
第1回	ロシア語の文字と発音と基礎的文法の復習(1)
第2回	ロシア語の文字と発音と基礎的文法の復習(2)
第3回	第11課 読み終わりましたか？
第4回	第12課 私は忙しかった
第5回	第13課 スープは何がおすすですか？
第6回	第14課 ご気分はいかがですか？
第7回	第11～14課の復習・練習問題6、7
第8回	第15課 いつお出かけですか？
第9回	第16課 ちょっとおうかがいしますが
第10回	第17課 この辞書はいくらですか？

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	基礎ロシア語	
第11回	第18課 彼の名前は？	
第12回	第15～18課の復習・練習問題8、9	
第13回	第19課 私は毎年ソチに行きます	
第14回	第20課 もしチケットがあるならば！	
第15回	第19、20課の復習・練習問題10、総復習	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。 授業への参加度(30%):授業での説明を聞いたり練習を行う時の姿勢態度や積極性の有無・程度などによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):毎回の課題を要求通りに作成し提出したか、課題の問題を正確に配当できているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	期末課題提出(40%):期末課題40点満点、要求された課題を確実に作成し提出したか、課題の問題を理解し適切に解答できているか、正しく答えられているかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	基礎韓国語						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	オンライン	担当教員	金 昌男		
到達目標							
1.韓国語の特徴を理解し実際に適用できるようにする。 2.韓国語で基本的な会話ができるようになる。							
成績評価の方法							
授業への参画度(50%)(5回目から14回目まで10回授業中に質疑応答で評価(5点×10回))、レポート(20%)(14回目に提出)、自己紹介およびインタビューテスト(30%)(15回目に実施)などにより、総合的に評価する。							
テキスト							
できる韓国語初級 I (新装版)、株式会社アスク出版、2021年 新装版 第25刷							
その他							
この授業は2単位の授業で、30時間は講義形式で行い、残りの時間は授業中に学んだ重要語彙と文型の復習と次回に学ぶ学習内容の予習をしてもらいたい。また、授業計画(週案)は受講学生達のレベルによって多少変更する場合がある。							
講義内容							
1.韓国語の基本的な文法や表現を説明し、日常会話で適用できるようにする。 2.日本人が習得しにくい発音や表現については十分な説明と練習を行って正確に習得させる。 3.特に日韓両言語の違いと文化の差から誤用が生じやすい表現は繰り返し正確に使えるようにする。							
受講登録以前に準備すること							
前もってハングルの字母(母音と子音)と発音などを正確に習得しておきましょう。							
取得可能な資格							
韓国政府が実施する韓国語能力試験(TOPIK)に挑戦することができる。							
授業の方法							

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	基礎韓国語	
1.毎回基本的なことを講義した後、全体練習を行う。 2.練習した後、個別に質疑応答しどれぐらい理解しているかを確認する。 3.主な文法項目と表現をまとめる。 4.この授業は2単位なので予復習を含めて毎週4時間程度勉強することを望む。		
授業計画		
第1回	1.授業計画の紹介、ハングルの字母と正確な発音、簡単な挨拶表現を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第2回	2.第10課 何時からですか。固有語数詞を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第3回	3.第11課 いつ日本へ来ましたか。過去形を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第4回	4.第12課 お名前は? 敬語表現を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第5回	5.第13課 どちらへ行っていましたか。敬語の過去形を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第6回	6.第14課 日本と韓国は似ているけど、けっこう違うでしょう? 確認と逆接について学習する。	
	担当教員	金 昌男
第7回	7.第15課 温泉に行きたいです。第1人称と第3人称の希望表現を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第8回	8.第16課 プレゼントを買うのでお金をたくさん使います。原因・理由の表現を学習する。	
	担当教員	金 昌男

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	基礎韓国語	
第9回	9.第17課 結婚式に何を着ていけばいいですか。許可求め、仮定と条件、～すればいいですか。などを学習する。	
	担当教員	金 昌男
第10回	10.第18課 食事でも一緒にしましょうか。勧誘と目的の表現を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第11回	11.第19課 写真をちょっと撮っていただけますか。依頼表現を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第12回	12.第20課 自転車に乗ることができますか。能力・可能、不可能、現在進行を学習する。	
	担当教員	金 昌男
第13回	13. 有声音化、連音化、鼻音化などを学習する。	
	担当教員	金 昌男
第14回	14. 「ㄱ」弱音化、激音化、濃音化、流音化などを学習する。【レポートの提出】	
	担当教員	金 昌男
第15回	15. まとめ、自己紹介および簡単なインタビューテスト	
	担当教員	金 昌男
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	30	15回目の授業中にオンラインでもって自己紹介および簡単なインタビューテストを行う。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業への参画度(5回目から14回目まで10回授業中に質疑応答で評価(5点×10回))

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	基礎韓国語	
その他	20	レポート(14回目に提出してもらう。)

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)						
科目名	基礎中国語						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2026	教室	C203	担当教員	田 桃雨		
到達目標							
日常会話などの基礎翻訳スキルを身に付ける。 中日言語の構造的差異を理解し、直訳と意識のバランスを習得する。 文化背景を考慮した自然な翻訳ができるようになる。							
成績評価の方法							
出席・授業への参加度(30%)、授業内の課題、小テスト(30%)、期末テスト(40%)などにより総合的に評価する。							
テキスト							
視聴覚資料、印刷物を用意する。 参考書:高田裕子、毛燕『日中・中日翻訳トレーニングブック』2009 .大修館書店 李 軼倫『ちょこっと中国語翻訳』2024.白水社							
その他							
日本人学生も中国人学生も受講可 受講生数や国籍のバランスにより講義計画変更する可能性ある。							
講義内容							
翻訳の基礎技術に焦点を当てつつ、実例を翻訳、解析する。							
受講登録以前に準備すること							
辞書							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)
科目名	基礎中国語
理論解説、対照言語分析、実践翻訳演習、添削フィードバックの流れで講義を行う。 授業後、単語の意味、翻訳方法などの復習が必要。目安は2時間ぐらい。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 翻訳について
第2回	取捨選択し、補足する
第3回	発想の違いを考慮する
第4回	意図を汲み取る
第5回	訳しやすく言い換える
第6回	原文にとわられすぎない
第7回	TPOに合わせて表現する
第8回	実務翻訳①
第9回	実務翻訳②
第10回	実務翻訳③

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	共通科目 国際コミュニケーション(基礎)	
科目名	基礎中国語	
第11回	実務翻訳④	
第12回	実務翻訳⑤	
第13回	実務翻訳⑥	
第14回	実務翻訳⑦	
第15回	総まとめ 課題テスト	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	筆記の翻訳テスト 中→日(20%) 日→中(20%)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	出席、授業への参加度(30%) 授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題、小テスト(30%):課題や小テストちゃんとできているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	0	